

【新聞制作学習・新聞機能学習】全校研究／小学１～３年生・国語科、小学４年生・総合
「伝えたい思いを育てよう」～子どもが、自らもっと知らせたいと思える姿を目指して～
指定校２年次 南木曾町立南木曾小学校 新井 如騎

（１） 本年度のNIE活動の概要

本校では、自分も友だちも大切に子ども「えがお」、ねばり強く最後までやりぬく子ども「あせ」、ふるさとや自分自身に夢と誇りをもつ子ども「ゆめ」を学校教育目標とし、その実現のため、学年ごとにそれぞれの発達段階に合わせて教育活動を行っている。

昨年度からNIEグループでは、子どもたちが目的をもって主体的に学習に取り組むために、「相手意識」という部分に焦点を当てて研究を進めてきた。学習した内容を、新聞、物語、発表原稿などにまとめる際に、誰に伝えたいのか明確にし、伝えたい相手をはっきりイメージすることで、「お母さんはこのことを知らないから、くわしく説明しよう。」「一年生にはこの言葉はむずかしいから、べつの言葉を使おう。」など意欲のある活動に結びつけることができた。

その一方で、それぞれのまとめ方は、多様な子どもたちの実態にあったのかという疑問が残った。一律に同じゴールを定めるのではなく、もっと個々に工夫できる余地を残した方がよかったのではないかとも思えた。そこで本年度は、どの子にも達成できるまとめ方は設定しつつ、子どもによってはさらに工夫できるようステップアップしたまとめ方を提案できれば、どの子どもたちも主体的かつ達成感の得られる学習のまとめができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

（２） 本年度のNIE活動の取り組み状況（４月時点）

本校は全校児童 166 人、7 学級である。指定校 1 年目の昨年度 4 月、新聞の購読率は家庭数のおよそ 3 分の 1 から 4 分の 1 程度であった。その中でも児童が新聞の記事を読んだり、新聞に載っていた内容を話題にあげたりという家庭はさらに 5 分の 1 程度に絞られていた。そこで、児童にまず新聞に親しみを持たせるために、地域や本校自体が話題となった記事を教室や廊下に貼りだして紹介したり、新聞から、学習した漢字や、お気に入りの写真を探したりする活動を行ってきた。そのこともあってか、本年度 10 月時点での家庭数の購読率は 3 分の 1 程度になり、新聞記事に興味をもち、家庭で話題にあげる児童も 4 分の 1 程度に増えてきた。

（３） NIE 活動の狙い（育てたい力）

①全校研究テーマ

本校ではここ 4 年間、全校研究テーマを「主体的に学習や活動に取り組む子ども～子どもたちが、願いや課題をもち、主体的に学び合う授業はどうあったらよいか。～」と設定し、研究を続けている。

児童自身が「こうありたい」「これを知りたい」と願いをもつことが、児童自身が主体的に学ぶための第一歩だと考え、そんな願いをもつためにはどのような授業の形が望ましいのかを探ることを目的としている。

②NIE 実践を通して育てたい力

本校の児童の実態として、受け身な姿勢が多いように教師は感じていた。授業中、聞かれたから答える、言われたからまとめるという感じを受け、自ら「これを伝えたいからまとめよう」という意志を感じられないことが多かった。しかしこのことは昨年度より、「相手意識」という部分に焦点を当て、児童自身が「発表したい」と思えるような授業づくりを意識してきたことで少しずつ改善されてきている。本年度はさらに一步踏み込み、児童自らが発表するためにあう発表形態を選べるように、学習のまとめの方法を工夫している。発表したいと思っている内容にあった形をマネジメントすることで、個別最適の学びに繋がることを目指した。

（４） 全校での取り組み

《身近な記事の紹介》

校長室前に地域や本校の活動に関わることが紹介された新聞記事の切り抜きを、月ごとに分けて貼りだしている。また、各学年に関わる記事については、該当学年でそれぞれ紹介したり、教室に貼りだしたりしている。

（５） 公開授業などの活動内容

単元の構想 2学期の授業実践

単元名 「4-1火おこしプロジェクト」(小学校第4学年・総合的な学習の時間)

1. 単元設定の理由

南木曾小学校の4年生は毎年総合の授業で「南木曾町の災害と水」というテーマで学習を深めている。4月、そのテーマについて、どんなことをしたいか話し合う中で「実際に災害が起きたときに火おこしができる」という意見が出た。そこから、火おこしを題材にした活動が始まった。早速、着火剤を使わない火おこしについて調べ、「まいぎり式火おこし」「弓きり式火おこし」「虫めがね」など様々な方法があることを知り、実際に自分たちのやりたい火おこしの方法を選び、火おこしに挑戦した。グループごとに試行錯誤しながら何度も作戦を立てて、回数をこなす毎にコツをつかみ始め、1学期の間で多くの子どもたちが火種をつくることができるようになってきた。2学期も議論を重ねながら「薪の組み方」「飯盒炊爨」「焼き芋」など火を使った活動に取り組んでいる。また砂防教室では、梨子沢土石流災害や砂防堰堤がある意味を学んだり、県庁の災害対策本部室を見学した際には、災害が起こった時に県庁ではどんなことが行われているのか学習したりして防災についての知識を深めた。

その知識を全校や、南木曾町に住んでいる人たちに伝えたいという願いを持った子どもたちから、新聞にまとめようという意見が出た。しかし一人一つの新聞を作るということに抵抗を感じる子どもも少なくない。そこで、友だちと意見を交わしながら安心して取り組めることを願ってグループで1つの新聞を作るという単元設定をした。また、子どもたちの活動がより円滑に進められるようにICTを使って協働で新聞を作るという活動を設定した。

2学期に入ってから、子どもたちはGoogle Classroomを使いながら授業を進めている。まだまだ使い始めたばかりで、タイピングや使い方など不慣れな点が多い。しかし、第4次産業革命という言葉を目にする機会が増えている今、目まぐるしい社会的変化の中でも、子どもたちが自信を持って自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができるよう、必要な資質・能力をしっかりと育てていくことが求められている。この活動を通して活用機会を

増やし、操作に慣れ、ICT 教育のよさの 1 つである、共同編集の機能を用いて友だちと議論しながら、共に 1 つの新聞を作り上げる楽しさを分かち合ってもらいたいと考える。また、本単元を通して、自分たちで ICT を活用しながら、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てていってほしい。

2. 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①新聞の形式を理解し、全体の構成や割り付けについて考えることができる。	①新聞の特徴をとらえ、自分たちが経験してきたことをもとに、工夫して新聞を作ろうとしている。	①全校に興味をもって見てもらえる新聞になるように、進んで考え、提案しようとしている。
②読み手が分かりやすいように、見出しや記事の書き方を考えて書くことができる。	②相手意識をもち読者が読みやすいように、Canva の機能を使い、字体や大きさを工夫している。	②友だちの意見や考えを受け入れて尊重しながら、協働して考えている。

3. 単元展開

時数	○学習内容・学習活動	・活動の留意点	評価規準 【評価方法】
1 2	○Canva 操作の確認 ○社会見学新聞の振り返り (伝えたいことに合わせた記事の内容、文や写真の配置など) ○班ごとに大テーマを据えて書く内容を整理する	・ Canva の使い方を振り返る ・ 社会見学新聞の際に気をつけたポイントを確認する ・ 記事構成シートを共同編集でまとめる ・ 大テーマを決める際にピラミッドチャートを使って書く内容を整理する	思① 主①② 【記事構成シート・ふりかえりシート】
3 4 5 6 7 8 9	○それぞれで文章を書き始める ○リード文、写真や見出しを考える ○班ごとに構成会議を行い、レイアウトを考えながら 1 枚にまとめる	・ 状況に応じて紙を用意する ・ 一人ひとりが参加できるように、声がけをしていく ・ 写真や見出しの大きさなど、読む人に興味をもってもらえるような新聞になるように話し合う ・ 自分たちの新聞の魅力やキャッチコピーを決める	知② 思① 【個人のドキュメント・ふりかえりシート】 知①③ 【班ごとまとめた新聞・ふりかえりシート】

10 本時	○各班の新聞を読み合い、評価し合う	・クラス全体で決めたポイントや班ごとに決めたキャッチコピーに沿っているのか読者目線で評価をする ・評価をつけたらその理由を言えるようにする	知① 主①② 【ふりかえりシート】
11 12	○クラス全体の意見を踏まえて、班ごとに最終チェックと仕上げを行う	・たくさんの子どもが評価できるようにスプレッドシートを活用する ・評価を踏まえ、最終チェックを行う	主①② 【ふりかえりシート・完成した新聞】

4. 本時案

①小単元名 「タブレットを使って、グループで1枚の新聞をつくろう」

②主眼 総合で活動してきたことを全校に伝えるために、記事の構成や見出しなどを班ごとに話し合って新聞にまとめている子どもたちが、他のグループの友だちから、いくつかの観点で評価を受けたり、その評価について友だちと意見交換したりすることを通して、よりよい新聞にするための作戦を練ることができる。

③本時の位置（全12時間中第10時）

前時：班ごとにレイアウトのチェックをし、キャッチコピーを決める。他の班の記事を読む。

次時：評価を踏まえて新聞の推敲をする。

④本時で大切にしたいこと（研究テーマに関わって）

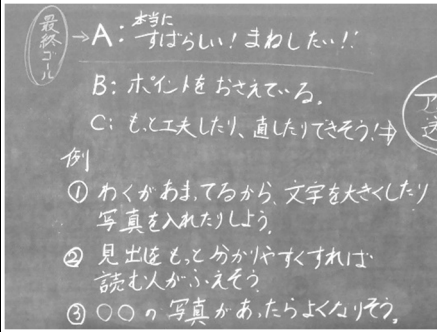
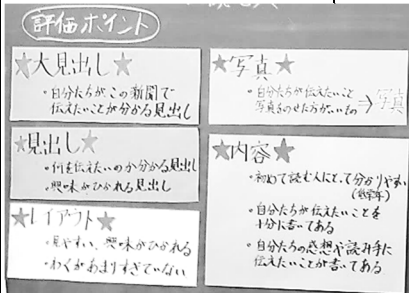
・対象の教材化

自分たちが半年かけて総合の授業で学習してきた「火おこし」「防災」を教材にし、新聞の形にして書いて、全校に読んでもらうことで、より対象に向き合い、子どもたちが「自らもっと知らせたいと思う」姿を期待する。

・発表形態の工夫について

8月に行われた長野市見学で学んだことを新聞でまとめる前に、信濃毎日新聞の出前授業のYouTubeをみて、記事構成シートの使い方、写真や見出しなど様々なポイントを教えてもらった後で一人一つずつ新聞を作り、全校に見てもらった。その際、序盤の記事構成シートを書くときから、他の友だちの様子を知ることができずに不安そうだったり、書くまでに苦労していたりする様子が見られた。その不安を解消するために、自分たちが実際に体験してきたことを友だちと意見をその都度交わしながら、楽しくまとめていけるようにするためにICTを活用して班ごとに1枚の新聞をつくらせることにした。この活動なら、一度に複数の子どもたちが作業することができるというだけでなく、共同編集機能を使うことで一度に多くの子どもが同じ記事を読んで比べたり、見合ったり、意見交換をしたりすることができる。また、新聞の構成の自由度が上がり、レイアウトや見出しや写真について、より友だち同士の話し合いの場が増えると考えた。

⑤展開 (10時間目)

段階	学習活動	予想される児童の反応	・指導と支援 ◆評価	時間
導入	学習問題: 全校のだれが読んでも分かりやすい新聞を作ろう。 1. 自分たちが作りたい新聞のポイント・班ごとに決めたキャッチコピーを確認する。	・興味をひく見出しが大事だね。 ・何のことを伝えたいのかわかる写真を載せることも大切だったね。 ・見やすいレイアウトだと興味をもってもらえそうだね。 ・一度クラスの人に見てもらいたいな。 	評価のポイント ・見出し・写真・内容 ・レイアウト・誤字脱字 	5
	2. 今日の活動の見通しをもつ。 学習課題: 読者目線で評価し合い、次回の作戦を練ろう。		・今日の評価がしやすいように自分たちが作ろうとしている新聞のポイントを確認する。	
展開	3. それぞれのチームの新聞を見てアドバイスやいいところを見つける 4. 友だちがつけてくれた評価を見たり他の班の感想を話したりして、次回の作戦を班ごとに練る	・見出しの文字の配置が工夫してあって見やすいから、見出しのポイントはAをつけよう。 ・写真の大きさが少し小さいからもっと見やすい方がいいと思うな。写真のポイントはBをつけようかな。 ・この班のレイアウトはとても上手だな。自分たちの班も真似してみたいな。 ・見出しの評価があまり良くなかったから、次回みんなでもう一度考えたい。 ・写真と文章のつながりがよくなっているというコメントがあったからもう一度選び直そう。	・班の机に新聞を印刷したものと、ポイントの評価ABC（コメント）ができるスプレッドシートを用意して子どもたち同士が動いて見合う。 ・コメントは否定的な内容ではなくアドバイスを入れるように声がけを行う。 ・評価やコメントに困っている子どもには随時声をかけていく。 ・スプレッドシートを見ながら、他の人の意見を知る。 ◆友だちの評価を見て、次回の作戦を立てることができる。	25 10

終末	5. ふりかえり	・今日のことを直して早く全校の人にってもらいたいな。 ・評価がもっとよくなる新聞が作れるように次回も頑張りたい。	・スプレッドシートにふりかえりを記入する。	5
----	----------	---	---	---

（６） 児童の反応

新聞の「見出し」についての理解や「写真」の重要性について考える時間を十分に取ることができなかった。また、子どもたちが、互いに評価し合う活動については、できるかどうか不安だった。しかし、子どもたちなりに上手にアドバイスをしていた。

タブレットを使った授業は、子どもたちは楽しんで続けてきた。今回も I C T 機器の使い方を最初に確認し利用していくことで、子どもたちは編集がしやすくなり意欲的に取り組んでいた。



友だちからもらった評価やアドバイスを基に作戦を立てる児童たち

（７） 成果と課題

今年度は昨年度の研究を踏まえ、学習のまとめを「誰に」伝えたいかを意識した上で、そのためにどのようなまとめ方がよいのかを工夫して授業を行ってきた。昨年度に引き続き「相手意識」をはっきりさせたことで児童自身の「もっと詳しく知らせたい」という思いを引き出し、自ら推敲する姿につなげていくことができたのではないだろうか。

今年度特にどの学級でも見られたのは、調べる事・質問する事をはっきりさせる手立てとして、「5W1H」を意識したことであった。1 学年では「おしえてカード」を作り、事前にインタビュー内容を考える際に「5W1H」を基にすることで、質問を考えやすくなり、事前に考えていた質問だけではなく、余った時間を使ってさらに質問を重ねていく姿が見られた。2 学年では、物語のあらすじをつかむために「5W1H」を利用し、登場人物になりきってインタビューに答える活動を通して、普通に読むだけではつかみきれない、登場人物の内面にまで踏み込んだ全容を捉えることができた。3 学年では、質問者として「5W1H」を基に自分の疑問を解決することを通して、自らが話者として話す際にも誰かに伝えるために押さえないければならない内容を意識することができ、普段の会話の中にも広がりが見られるようになった。4 学年は新聞作りの中で、自分たちが作成した文章に見出しをつける際にどんなものがふさわしいのか大切なキーワードは何かを「5W1H」を基にして考えた。また、信濃毎日新聞社が行っ

ている出前授業の動画版を確認しながら新聞作りを行ってきた。

昨年度より引き続き研究テーマに加えた「相手意識」についての有効性が見られた一方で、なかなか個々にあった発表形態やまとめの工夫を提案することができなかったことが来年度への課題である。

4学年の総合的な学習の時間では、まとめの形態を新聞としたが、その新聞作りをタブレットの、共同編集機能を利用して行った。そうすることで、「書くこと」に苦手意識を持っている児童にとっては、漢字の変換や記事の加筆・訂正がスムーズに行えたり、字の大きさを自由に変更できることで文量としての負担が減ったりすることによって最後まで意欲的に活動することに繋がった。また、グループでの新聞作成にし、同時に作業を進める中で、お互いに悩みを相談し合ったり、アドバイスをし合ったりすることがしやすく、自然と対話が生まれている姿があった。さらに、たとえば同じ「新聞」という発表形態でも、個別に行うのか、グループで行うのかの違いや、手書きにするのか、ICT 機器を利用するのかなど、まとめ・発表の形態だけではなく、その方法にも考慮の余地があることが分かった。

以上のような工夫を行ってきた中で、子どもたちがやって終わりではなく、その後もさらに自分の知りたいことを基に質問したり、調べたりすることができるきっかけ作りができたのではないかと考える。そうして知りえた自分だけの情報は児童にとって大きな成果となり、より学びたいという主体的な姿に繋がっていくのではないだろうか。

町を守る 砂防堰堤

人を助ける
デイマツーカー



みんなががんばった 災害対策

力を合わせて火起こし挑戦



編集後記

災害対策委員会の活動は、今年度、4月からの総合的な学習の時間で、災害対策のテーマをもとに様々な活動をしてきた。今年度、災害対策のテーマをもとに、食料を運ぶための活動として、「火」に注目して火起こし活動を行った。社会科で学んだ災害対策の本質、水害対策の「防」から、砂防堰堤の「防」を学ぶことに注力し、砂防堰堤の役割を学ぶとともに、災害対策の重要性を伝えるために新聞を作った。

長野県の安全を守る災害対策本部

【資料1】児童が作成した新聞